

船舶事故等調査報告書

平成22年1月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第160号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成21年3月18日 13時50分ごろ	
発生場所	千葉県千葉港南袖ヶ浦第4号灯標から181° 2,650m付近 (概位 北緯35° 26.1′ 東経139° 57.5′)	
事故等調査の経過	平成21年6月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 引船 第二十一 <sup>ふくじゆ</sup> 福寿丸、99トン 136002、福寿船舶株式会社 B バージ K-110、長さ65m なし、福寿船舶株式会社	
乗組員等に関する情報	A 船長、四級海技士（航海）（履歴限定）	
死傷者等	なし	
損傷	A プロペラ及びプロペラ軸に損傷	
事故等の経過	A船は、4人が乗り組み、船首約1.9m、船尾約3.3mの喫水で、橋桁を積んだB船をえい航し、千葉港千葉第4区南袖ふ頭東方の可航幅約480mの掘り下げ水路を南進した。 A船は、B船をえい航した状態のまま、掘り下げ水路に入り、左舷側の着岸予定の岸壁にB船を着けるためにえい航索をいったん外して、B船の右舷側に移り、B船を横抱きの形にして引くため連結作業を行っていたところ、南西からの強風で南袖ふ頭南岸近くの浅所に向かって圧流され、A船の船首を風上側に向けたものの、平成21年3月18日13時50分ごろ、A船の船尾が浅所に乗り揚げた。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南西、風力 6、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮末期	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり A船は、千葉港においてB船の右舷に係船する着岸準備作業中、両船が強風に圧流され、A船が浅所に乗り揚げたものと考えられる。 A船は、南袖ふ頭東方の広い掘り下げ水路ではなく、南袖ふ頭南方の狭い掘り下げ水路で着岸準備作業を行ったものと考えられる。 船長Aは、積荷の到着を待たれていたことから、目的の岸壁近くで着岸準備作業を行った可能性があると考えられる。
原因	本事故は、千葉港において、A船がB船の左舷を岸壁に着岸させようとしてB船の右舷に係船する着岸準備作業中、狭い掘り下げ水路内で作業を	

	行ったため、B船とともに強風に圧流され、A船が浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。
--	---